

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
91	川崎市立東菅小学校	栃木 達也

学校教育目標	学校経営の目標（めざす子ども像）	今年度の重点目標
・自ら進んで学習する子（かしこく） ・思いやりがあり、協力する子（やさしく） ・元気でたくましい子（たくましく）	○自ら学び、自分を振り返る子 ○違いを認め、人から学ぶ子 ○前向きに考え、学校をつくる子	1 支援教育の充実 2 保護者・地域との連携 3 川崎市キャリア在り方生き方教育の推進

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 1 授業を変える ①自ら学び、自分を振り返る子の育成	「児童のはてなから問いを引き出す」「学習の見直しをもたせる」「単元の振り返りを意識的に行うなど、自分の成長や学びを実感できる場を設定」「表現活動に重点を置き交流し合うことで自分の学びを振り返る」など子どもたちが自己決定できるよう、具体的な取り組みを進めた。	全体的に子ども一人一人が自分の意見をもって学習に臨むようにすることで、全員が学習に参加する意識を高めた。知識の定着については個人差も大きく、不十分な児童が多い。振り返りの時間は設けているが、自分からこれまでの学習を振り返ろうとする児童がまだ多くない。	校内研究の中で、全体の傾向として基礎基本の定着が図れていないことや、自分の学びを振り返ることについて本校児童の課題としてあがっているため、各学年の研究の中で発達段階における取組について共通認識をもちながら進めていきたい。
2 1 授業を変える ②違いを認め、人から学ぶ子の育成	子どもたちの発達段階を考慮し、友達の意見を聞き、自分の考えと似ているところや異なるところを比較しながら、学んだことをつないでいくことをめざして、そのための活動を多く取り入れてきた。振り返りの視点として「友達から学んだこと」などを意識的に取り入れている。	友達の意見と自分の考えを比較することの成果は感じられている。しかし、友達との違いに気づいた後、自分の学びに変えていくことが難しいと感じている。受容的・共感的な学級経営についてまだ課題があると感じている。	校内研究のサブテーマにある「他者意識をもった子をめざして」を具現化するため、各学年で手立てについて検討し、活動の成果を共有して高めていきたい。話型等のスキルを高めていだけでなく、他者を受け入れる学習の土台としてのスキルを磨いていくことも必要となる。
3 1 授業を変える ③前向きに考え、学校をつくる子の育成	係活動、委員会活動、実行委員の活動に対して、子どもたちが自ら考え、決定していく場を多く設けるようにしている。また、コロナ禍での経験・ふれあいの不足が解消されるよう新たに学習成果の発信の場を設定した。	子どもたちの活躍の場面を大切に、励まし続けることで成功体験が増え、自分が役に立っているという自己有用感が少しずつ芽生えている状況。「学校をつくる」ということについての教職員間の意識の違いもあり、子どもたちの活動に対する共通認識をもつ必要がある。	主に特別活動や生活科、総合的な学習の時間などの学習活動を通して、一人ひとりが、小グループ、学級、学校、地域をつくる一員という意識をもてるよう、各学年で活動内容に対する共通認識をもちたい。担任だけでなく支援教育Coを中心にチームで取り組んでいく。
4 2 保護者と向き合う ①目指す子ども像の理解 ②成果のある教育相談の実施	学校説明会・報告会、授業参観懇談会、学校・学年便り、ホームページ等でめざす子ども像に向けた取組を紹介し、教育活動を理解していただいていた。また保護者面談から教育相談につなげ、担任だけでなく支援教育Coとも連携し保護者の困り感を受け入れている。	子どもたちと担任との面談から、保護者と具体的な関わり方について話し、教育相談になるケースが増え、保護者の安心感が増した。担任や支援教育Co、養護教諭、管理職等と連携を密にし、迅速に丁寧な対応ができることが多くなった。学校からの発信は、まだ工夫の余地がある。	保護者との面談を年間の早い時期に実施し、担任と保護者ができるだけ早く子どもたちに関する状況を共有し、早めに対応を始めることで、より効果的な教育相談ができると考えている。巡回カウンセラーなど外部の専門家とも積極的に連携していく。報告会については、実施方法を検討していく。
5 3 地域と向き合う ①子どもたちを通わせる学校としての信頼 ②地域に対する発信の実施	コロナ禍でしばらく行われなかった地域の行事への参加や、「ふれあいまつり」の再開にむけて、各学年とも工夫を凝らして準備に臨んだ。授業の中でゲストティーチャーを呼んだり、町探検等で地域の方とふれあう機会を多く設定し、協力を得られている。	ふれあいまつりの再開に向け、教職員で協議を重ね、学校運営協議会での提案、協力依頼など、本年から始まったコミュニティ・スクールが機能した形となった。ゲストティーチャーへのお礼や長いスパンでの連携のため、地域への発信の工夫についてさらなる検討が必要である。	川崎市キャリア在り方生き方教育についての考えを校内だけでなく、地域にも発信していき、理解・協力を一層推進していく。新たな人材発掘をして、総合的な学習の時間のさらなる充実を図る。市制100周年とからめて、地域とのかかわりを強化できるようにしたい。
6 4 安全・安心な学校 ①支援教育の充実 ②安心できる学びの場としての学校づくり	学級で支援が必要な場面が出てきたら、担任から学年、支援教育Coとの連携をはかり、保護者の了解のもと取り出しや入り込みなど支援を行っている。校内に個別学習室（ホッとルーム）や保健室など、一時的に落ち着いて学習をしたい児童の居場所の確保ができている。	チームでの支援の体制は充実してきているが、支援教育Coへの依存が大きくなりすぎること懸念される。各学級での一次支援の充実が欠かせない。教員側の児童理解や合理的配慮などについての知識の習得や研修の充実も必要となる。	今年度、教育委員会の校内支援推進協力校として支援教育充実に向けてスタートし、次年度も継続して校内支援体制を充実させていく。今年度の成果を整理し、年度始めから効果的な支援ができるよう、成果と今後の方向性について教職員がチームで進められるよう周知を図る。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
今年度よりコミュニティ・スクールとしてスタートし、年3回の学校運営協議会を開催した。第3回の協議会で保護者アンケートや児童アンケート、教職員の自己評価など数値から読み取れる成果や課題について共有させていただいた。その中では、全体的には高評価なので自信をもって進めてほしいとの励ましや、苦手としている子どもたちに対する支援について、公表の仕方も含め学校全体の結果だけでなく学年ごとの評価について検討することも必要ではないかなど、詳しく分析していくことの大切さについてご意見いただいたことから、今後検討していきたい。	重点目標に地域との連携やキャリア在り方生き方教育における地域との関わりを掲げ、教育課程の充実のため学校運営協議会でご意見をいただけるよう進めてきたが、ふれあいまつりの再開に向け、教職員で協議を重ね、学校運営協議会での提案、協力依頼など、本年から始まったコミュニティ・スクールが機能した形となった。地域人材の活用や地域への発信の方法についてはまだ課題が多いことから、今後も課題について共有しながら、地域と共に子どもたちを育てていけるよう連携を図っていきたい。GIGAスクール構想の推進については、児童の活用は進んでいるものの、学校全体での活用の重点を設定していないため、今後本校での推進方法について協議を進めていきたい。